

自動車部品産業を取り巻く環境変化と 知財活動への期待

加藤 良文*



I. 自動車部品産業を取り巻く環境変化

自動車部品産業を取り巻く事業環境については、2つの技術のキーワードである「環境」と、「安心・安全」が重要性を増している。

「環境」技術であれば、燃焼効率化、ダウンサイジング、電動化（含むハイブリッド）、電気自動車に関連する技術が重要となっており、例えば、既存の自動車のコア技術である内燃機関とその周りを固める部品（燃料噴射系）がキー製品であったものから、電気自動車の技術では、航続距離を左右するバッテリー、走行性能に大きな影響を与える

モータ、それらモータの最適制御等と、重要コア技術／製品が大きく変化する。このことにより、先を見越した技術／製品戦略のみならず、今までの競合会社から新たな競合会社へ変わる可能性もあり、これら会社に対するビジネス戦略が必要となってくる。

「安心・安全」技術であれば、運転者が快適に運転できる運転支援、交通事故減少を目指した、歩行者認識とその対応、近い将来には自動運転（周辺環境の認識、自動で走る・止まる・曲がる、安全に目的地まで到着）の技術が必要とされてくる。この「安心・安全」における技術領域では、まずは周辺環境（100～200メートル）を認識するための認識技術、地図連携、外部との通信（車車間通信、路車間通信）、また、歩行者保護を進めていくためにも、歩行者を確実に判別するシステムも重要である。一方では、車と人とのやりとりをするヒューマン・マシン・インターフェース（HMI：Human Machine Interface）技術により、運転中に、運転者が注意散漫（例：別の興味を持っていたり、眠気がある等）の際に、それを検知して、覚醒させる技術（冷氣、臭気）も併せて考えていく必要がある。さらには、自動車の運転状態を運転者にわかりやすく、理解させるための、ヘッドアップディスプレイと、そのディスプレイ上の表示も大切な技術になってくる。

上述したように、自動車を走らせ、曲がらせ、止まらせる機能以上に、物体認識、外部通信、運転者状態、表示機能等、それぞれの専門技術と、それら技術の組み合わせ等の幅広い技術の集合となってくる。また、自動運転については、今までの自動車メーカーのみならず、他分野からの参入もあり、新たな競合相手との戦いも視野に入れる必要がある。

一方で、幅広い技術対応により、1社単独で開発できる技術／製品の範囲を超えて開発／ビジネスを進めていく必然性がある中、他社／大学／公共機関（国内外）との積極的な連携、オープンイノベーションの活用がますます重要となってくる。

* 株式会社デンソー 常務役員 Yoshifumi KATO

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

また、自動運転に関しては、通信技術、自動車のセキュリティ等、自動車部品産業において、今まで経験が少ない、標準化対応も急務となっている。

II. 知財活動への期待

今までの知財活動では、開発品における差別化技術を確実に知財権として獲得することで、製品の優位性を確保して市場拡大を図っていくこと、もしくは、他者の知財権の障害を除いて、市場参入の制限なく、事業を行えることが大切な役割であった。今後も、自らの製品を保護するための知財活動は、必要であるものの、コストミニマムで、グローバルに知財を有効利用できるようにしていかなければならない。

特に、自動運転技術においては、技術の拡がり、技術の組み合わせの多様性、及び技術のスピード感等に確実に対応するには、自社の技術及び知財権の強みと、弱みを明確にして、市場で勝つための、知財戦略を立てて、スピード感を持って活動することが重要である。また、今までの自前主義から、知財権を購入する等の新たな取り組みも重要になってくると思われる。(アメリカの主要会社では、知財権を購入して、事業参入環境を優位に立っているものもある)。ますます、知財活動における、情報収集力、分析力を強化して、事業と一体となった知財戦略活動を推進していくべきである。

最後に、グローバルで競争力を強化するためにも、地域ごとに強みのある技術、規制等を考慮した、海外地域毎の開発体制が必要となる。その中、各地域における知財活動をしっかりと把握/リードして、それぞれ地域での知財権を補間できるような取得活動を行って、グローバルで戦える知財ポートフォリオを構築していくことが重要である。

